

# 第1回 長野県私学振興大会

私学教育の充実、公私間格差の是正、保護者負担の軽減を目指して

開催日時 平成26年12月15日（月）

13時30分～

会場 長野市 犀北館ホテル

本館2階「グランドボールルーム」

主催

公益社団法人長野県私学教育協会

一般社団法人長野県私立幼稚園協会

長野県私立中学高等学校協会

一般社団法人長野県私立短期大学協会

一般社団法人長野県専修学校各種学校連合会

長野県私立高等学校PTA連合会

# 次 第

## 第1部 式典（13：30）

- 1 開 会
- 2 開会のことば  
長野県私学教育協会理事 大森けい子
- 3 国歌斉唱
- 4 主催団体代表挨拶  
公益社団法人長野県私学教育協会 理事長 宮川義典  
一般社団法人長野県私立幼稚園協会理事長 窪田英一  
長野県私立中学高等学校協会 会 長 西澤善明  
一般社団法人長野県私立短期大学協会理事長 住吉廣行  
一般社団法人長野県専修学校各種学校連合会理事長 成田守夫
- 5 祝辞  
長野県知事 阿部守一様  
参議院議員 小坂憲次様  
参議院議員 北澤俊美様  
長野県議会議長 風間辰一様  
長野市長 加藤久雄様
- 6 来賓紹介
- 7 祝電披露
- 8 大会決議  
長野県私立高等学校 PTA 連合会会長 諸橋賢二
- 9 閉会のことば  
長野県私学教育協会理事 水野一成

## 第2部 記念行事（14：40）

- 1 優れた功績を上げた生徒等に対する理事長表彰
- 2 各界で活躍している私立学校出身者の体験発表

## 主 催 者 挨拶

長野県私学教育協会理事長 宮川義典

本日は、第1回私学振興大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

また、阿部長野県知事様はじめ、ご来賓の皆様にはお忙しい中ご臨席いただき、重ねて感謝申し上げます。

私学教育の振興につきましては、平素より格別なるご配慮とご指導を賜り関係者一同心より感謝申し上げます。

当協会傘下の私立学校は、それぞれの伝統と建学の精神に立脚し、新しい時代に対応すべく特色ある教育を積極的に展開して、有能な人材を数多く社会に送り出し、本県教育及び地域社会の進展に大きく貢献してきたと自負しているところであります。

しかしながら、今日、私立学校が直面している現状をみますと、私立学校園児・生徒・学生を持つ保護者の経済的負担は大変重たく、公私間格差も依然として大きなものがあり、教育の機会均等の面からも大きな問題となっております。また、少子化による長期的な園児・生徒・学生の減少と、消費税の増額等の経済動向が私学への志向を圧迫するなど、私立学校を取り巻く環境は依然として厳しく、私立学校の経営基盤をも揺るがしかねない状況にあります。

このような状況のもと、今後の県内の私立学校が特色ある教育を推進できる環境を整えることが重要であることから、私立の幼稚園、小・中高等学校、中等教育学校、短期大学及び専修学校・各種学校の関係者が一堂に会して、私学の責任と役割の重要性を発信し、私立学校の健全な発展と向上を図るため、「第1回長野県私学振興大会」を開催することといたしました。

この後、各団体長が挨拶を兼ねて決意表明を行ないます。

県におかれましても財政事情が厳しいなかにはありますが、私立学校がその役割を果たし活性化することが、県の財政負担軽減にも寄与するものと確信いたします。

私立学校の教育条件の維持向上と、私学助成の一層の拡充強化につきまして、特段のご高配とご尽力を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

## 長野県私立幼稚園協会理事長 窪田英一

明治21年、松本の地に県内初の幼稚園が開園してから120年余が経過し、私立幼稚園の数は現在105園を数えております。

人の一生において幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期であり、幼児は、生活や遊びといった直接・具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達、社会性を涵養し、人間としての基礎を獲得していきます。

幼稚園は学校教育法に基づく学校であり、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とするものであって、小学校以降の生活や学習の基盤を養う学校教育の始まりとしての役割を担っている極めて重要な教育機関であります。

しかるに、長野県においては、幼稚園就園率は22.9%と全国最下位であり、子どもたちに対し十分な就学前教育が行われているか疑問を呈さざるを得ません。

最近の子どもを取り巻く社会環境は、少子高齢化や核家族化の進行、女性の社会進出の拡大や価値観の多様化等、大きく変化しております。

今こそ幼児期からの発達の連続性に配慮し、小学校以降の発達を見通したうえで、幼児期に育むべき人間形成の基礎づくりができる教育環境を確保し、幼児教育を充実していくことが国家戦略としても重要であり、長野県の私立幼稚園はこの役割をしっかりと担っていくことを決意するものであります。

私立幼稚園を取り巻く環境は、少子化の進行など大変厳しいものがあり、併せて、平成27年度からは、新たな子ども子育て支援制度が始まろうとしています。

県におかれては、支援制度に合わせた助成体系を早急に整備し、移行が円滑に行われるよう支援体制を強化するとともに、私立幼稚園の経営基盤強化のための財政的支援の充実をお願い申し上げます。

長野県私立中学高等学校協会会長 西澤善明

中学校では、社会において自立的に生きる基礎を培うための、また、高等学校では、変化の激しい現代社会において主体的な自己を確立し自ら学び行動していくための幅広い教養と一定の専門的な知識、職業観等を身に付けるための教育が求められています。

そのような中で、私立中学校・高等学校は、それぞれが掲げる「建学の精神」に基づき、校風や特色を活かして、子ども達の個性を尊重しながら、豊かな人間性や創造性、そして健やかな身体を養うためのきめ細かな教育活動を実践しています。

また、中高一貫教育の実施あるいは中等教育学校の設置など、私学が持つ柔軟性を生かして、多様な教育環境を整えて県民のニーズに応じてきています。

昨今では、少子化やグローバル化の流れの中で、小中一貫教育の制度化や小学校における英語教科化や理科などの専科指導の推進が提言されるなど、学校教育の環境が大きく変わろうとしています。そのような中で、グローバル化に対応する国際感覚豊かな人材の育成や、まさに社会人になるための助走期間にいる子供たちの教育に私立中学校・高等学校は今まで以上に取り組んでいます。

そうしたことは、英語コースの設置や中高一貫教育などにみられるように、私立学校が先鞭をつけて長野県の学校教育を様々な面で牽引してきたという自負とともに今後もその役割を担っていくことを強く意識しています。

しかしながら、良質な教育の提供は、教職員の教育に対する情熱とともに学校経営基盤の安定があって成り立つものですが、高校無償化の影響は大きく、経営努力だけでは対応しきれない課題もあります。また、私立中学校に生徒を通学させる保護者の負担軽減をも含め、県には今後とも更なる助成の増額上乘せをお願い申し上げます。

私立学校においては、募集定員確保が重要な点でもあります。公立高校と私立高校との募集定員に関しても、その策定が適切に行われるよう教育委員会への助言をお願い申し上げます。

一般社団法人長野県私立短期大学協会理事長 住吉廣行

短期大学は、高等教育の普及や実践的職業教育の場として、大きな役割を果たしていますが、その特色は、地域に身近な高等教育機関として、短期間で、大学としての教養教育やそれを基礎とした専門教育を提供する点にあります。

県内八つの私立短期大学への進学者のうち県内出身者は9割を超えており、地域における高等教育機会の確保の面で重要な役割を果たしています。これにより、学生の生活費も少なくすみ、経済的負担の軽減に繋がっています。

また、幼稚園教諭や保育士、介護福祉士など、地域の専門的職業人の養成の面でも重要な役割を担っています。このことは、就職希望者のうち約9割の者が県内に就職していることがそれを裏付けています。

一方、少子化の進行などにより、大学への入学希望者総数が入学定員総数を下回る、いわゆる大学全入時代を迎えるといわれる状況にあって、短期大学は地域との繋がりが強いという固有の特長を最大限に活かして、より選ばれる高等教育機関になるよう力を注いでいかなければならないと考えています。

そのためには、例えば、地域の知の拠点としての機能を地域住民の生涯学習のために積極的に提供していくための仕組みを構築する、というように新たな視点、多様な考え方をもって大学運営に取り組んでいく所存です。

そのような中で、県外高等教育機関の長野県内での学生募集の攻勢は非常に強くなっており、県内の高等教育機関は危機感を募らせております。そして、そうした動きを傍観している状況でないことから、県が高等学校の進路指導に対する考え方を関係者を集めて協議するなど、長野県高等教育の将来を見据えた対応策を早急に講じていただくよう切に望むものです。

なお、新県立大学の設置については、広範に意見を聴取し、慎重に進めていただくようお願い申し上げます。

一般社団法人長野県専修学校各種学校連合会理事長 成田守夫

産業構造の変化やグローバル化に対応するため、経済発展の先導役となる産業分野などへの人材移動を円滑にすすめるとともに知識・技術・技能の高度化を図るための職業教育や職業訓練機会の充実が不可欠な時代を迎えています。

専修学校各種学校は、社会の変化に対応して多様な職業教育を実施して各分野の専門的、技術的な知識及び技術を習得した人材を様々な産業界に送り出すとともに地域密着型の教育機関としての役割を果たしてきました。

このことは、県内高等学校卒業者の約3割が専修学校各種学校に進学あるいは入学していることに現れています。

また、社会人がスキルアップを目指して学び直しするための教育機関としても、専修学校各種学校に対する期待は高まっています。

このような中で、専修学校各種学校は職業教育機関としての社会的責務を果たしていくため、学校評価委員会及び教育課程編成委員会実施の徹底や教育活動などの情報を正確かつ広く社会に発信するなどして、教育と学校運営に関する社会的評価向上に向けた取り組みに努めていくこととしています。

職業教育は、若者が自らの夢や志を考え、目的意識をもって実践的な職業能力を身に付けられるようにするとともに、産業構造の変化や技術革新等に対応するプロフェッショナル教育として充実を図ることが一層必要になると考えております。

さらに、国の教育再生実行会議が第五次提言に盛り込んだ職業実践的な教育に特化した新たな高等教育機関の創設が早期に実現されるよう国に働きかけていただくようお願い申し上げます。

## 大会決議（案）

長野県の私立学校は、それぞれの建学の精神と独自の教育理念に基づき、新しい時代に対応する特色ある教育を積極的に展開して、有能な人材を育成すべく努力して参りました。

これからも長野県に生まれ育つ子どもたちの教育に、責任を持って尽力していく決意であります。

しかしながら、近年の少子化に伴う就学人口の減少や長引く不況による雇用状況の悪化等によって、私立学校をとりまく環境はますます厳しさを増しております。

また、私立学校に通う園児・児童・生徒・学生を持つ保護者が負担する教育費の公私間格差は解消されておらず、教育の機会均等の面からも大きな問題となっております。

このことが学校選択の際の入園、進学を阻む大きな障壁となっており、私立学校の経営基盤をも揺るがしかねない状況にあります。

長野県の将来を担う子供たちの教育環境は、公私立の違いによって格差を生じることがあってはなりません。

私たち私立学校は、長野県教育の担い手であることを強く自覚するとともに、私学振興に対する県民あがての期待を受け、長野県教育の充実になお一層努力することを誓い、次の事項を決議します。

### 記

- 1 教育費の公私間格差の是正と保護者の経済的負担の軽減を実現すること
- 2 教育環境充実・整備のため、私学に対する助成制度を拡充すること
- 3 私学経営の健全化のため、私学に対する財政支援を充実すること
- 4 教育の機会均等及び学校選択の自由を確保すること
- 5 魅力ある私学教育を目指して、私立学校間の連携を強化すること

平成26年12月15日

公益社団法人長野県私学教育協会  
第1回長野県私学振興大会



理事長表彰受賞者名簿

学校名	氏名	種別	業績
俊英幼稚園	全学年	ボランティア	地域の老人会や高齢者施設との交流
長野日本大学高等学校	弓道部	弓道	全国総体準優勝 技能優秀賞
伊那西高等学校	新体操クラブ	新体操	全国総体団体3位
伊那西高等学校	猪又涼子	新体操	全国総体個人2位
松本第一高等学校	鳥羽 潤	柔道	全国総体73kg級優勝
松本第一高等学校	二山治雄	バレエ	ユース・アメリカグランプリ2014 ニューヨークファイナルシニア男性1位
松本第一高等学校	巢山太智	柔道	全日本ジュニア体重別選手権 55kg級準優勝
松本第一高等学校	石原 優	空手	第69回国民体育大会女子個人戦優勝
東海大学附属第三高等学校	山梨 歩	バスケットボール	第23回FIBAASIAU-18男子バスケットボール選手権日本代表
東海大学附属第三高等学校	鶴田美勇士	バスケットボール	第23回FIBAASIAU-18男子バスケットボール選手権日本代表
松商学園高等学校	荻原 和	フリースタイルスキー モーグル	オーストラリアン・ニュージーランドカップ 総合8位、ジュニア2位
松商学園高等学校	前田知沙樹	スキー	全日本グラススキー選手権大会2位 ワールドジュニアスキーグラスチャンピオンシップ2014 GS2位、SL優勝、SG優勝、SC優勝
エクセラン高等学校	生徒会	ボランティア	花いっぱい運動への協力 国体開催県への花種子贈呈
エクセラン高等学校	普通科環境科学コース	ボランティア 調査研究	福島原発事故後の放射能学習 薄川の植生、水質調査
上田女子短期大学	図書館サークル	ボランティア	各地図書館の書架整理 読み聞かせ活動
上田女子短期大学	ボランティアグループ	ボランティア	福祉施設における各種イベント
長野医療衛生専門学校	音楽療法士学科	ボランティア	福祉施設、病院等における音楽療法セッション、 各種イベントの手伝い
長野美術専門学校	美専プロダクション	ボランティア	県との連携によるポスターデザインプロジェクト (人権ポスター制作への協力)
信州医療福祉専門学校	トレーナー部	ボランティア	各種スポーツ大会におけるメディカルサポート支援活動

## 体験発表者の紹介

1 お名前 塚田みほり 様

職 業 バレエ学園教師

出身校 長野清泉女学院高等学校

経 歴 母、塚田たまゑのもとでバレエを始める。

### モナコ・パリ留学

2008年より名古屋バレエコンペティション21審査員

2009年・2010年、東急新聞より優秀指導者賞

2013年 ジャパングランプリ審査員より 優秀指導者賞受賞

2014 生徒、二山治雄が第42回ローザンヌ国際バレエコンクール  
で第1位受賞

2 お名前 長谷部和希 様

職 業 会社員

出身校 長野日本大学高等学校

経 歴 平成21年卒業

長野市在住の24歳の会社員。高校時代は長野日大高校のバレー部に所属し、リベロとして春の高校バレー、インターハイベスト16を経験。大学時代は世界各地のいろいろなバレーボールに触れながら世界を放浪。2012年11月にはスリランカの子供たちにバレーボールを指導。そして靴の履いていない子供たちのためにSNSを駆使し、靴の寄付を募集し子供たちにプレゼント。2014年3月にはスリランカ再訪、8月にはタイでバレーボールの指導、支援活動を行う。